

内部一元化にらんだ人事



発行所
東京都千代田区霞ヶ関
財務ビル内(〒100-0013)
全国税労働組合
発行人 岡田 俊明
電話(03)3581-3678
FAX(03)3507-0886
振替口座 00140-2-68514

“税務の職場”
何でも110番
zenkokuzei@aol.com

全国税は、職場で起こった問題を解決するため「税務の職場、何でも110番」を常時設置しています(電話とFAXは上記の番号までどうぞ)。

全国税ホームページ
http://www.kokko-net.org/zenkokuzei

予告、発令、着任と毎年夏の風景が今年も繰り返された。転居、単身、遠距離通勤...公務の要請の名の下に、当局の発令によって職員は、あきらめの心理の中で生活を再構築せざるを得ない状況に追い込まれている。全国税が「上席以下の単身は2年を原則とする」を勝ち取り定着させた。だが、拘束時間延長は再び深刻な影を落とし、今年の人事発令は当局の姿勢が試されていた。結果を見れば、諸課題の解決を先延ばしにし、数年先の機構改革をにらんだ人事を選択した当局がそこにあった。

管理と賦課の交流増大 課題はいずれも積み残し

法人課税調査部門上席 署に拡大するが、その後から管理部門上席への転課発令が目立って増えている。1署で4人同時という署もでた。21年夏、全国一斉に内部一元化へ移行すると表明した当局は、一元化の試行を今事務年度全国48署に拡大するが、その後の拡大は考えていないという。ということは、47署がぶつつけ本番で内部一元化を行うことになる。一元化部署では収入官が受け持つ業務を誰でもやることになる。管理部門の職員にしてみれば、課税関係の相談業務をこなさなければならぬ。要は「一人税務署」と言われるように、一人が税務署内部事務の全業務をこなすのが一元化だ。今回の交流人事は、試行に限らず、全税務署で一元化に向けた体制作りをしていくという配置上の具体化である。あと2年同じ傾向が強まると予測される。



若手抜擢を続けているため、「塩漬け」の上席層が希望をもてる発令状況ではない。異動保障関係での配慮はなく、在署年数が長期化している。課題は、積み残したままである。

組合差別続ける当局
全国税組合員に対する差別人事は明白な国法上の不法行為で、このような下で民主的な職場はありえない。職場全体の問題として差別是正を当局に求めたが、右表の発令を勝ち取り、いわゆる一般上席からの発令も影響を与えている。しかし、普25・26期は解消せず、当局は不当差別を継続。怒りをもって抗議する。

や、国専格差の是正など、職場全体の発令にも影響を与えている。しかし、普25・26期は解消せず、当局は不当差別を継続。怒りをもって抗議する。

女性登用・採用改善の到達状況を明らかにし、改善の継続を表明した当局。直後の人事で女性職員のポスト昇任や登用が目玉とされていた。副署長、総務課長、課長補佐などの目玉的登用と、統括官・特官への昇任数増加が確認できる。しかし、これではあと何年かかるのかと女性職員を落胆させる発令数であり、職場にメッセージが容易に想像される。激務で病気になる、病気になるれば「職責を果たさない」と降格する当局の降格人事は、懲罰を通り越している。他省庁と比較しても飛びぬけており、国税庁の降格人事は異常である。

異常な降格人事、国税庁突出

「統括から上席に7人が降格された。一人は希望だが、後は『仕事をしない』表に出ない不祥事』を理由に当局が降格した」という話が東京局で飛びかった。降格は関連調査官が、降格を希望し

長補佐などの目玉的登用と、統括官・特官への昇任数増加が確認できる。しかし、これではあと何年かかるのかと女性職員を落胆させる発令数であり、職場にメッセージが容易に想像される。激務で病気になる、病気になるれば「職責を果たさない」と降格する当局の降格人事は、懲罰を通り越している。他省庁と比較しても飛びぬけており、国税庁の降格人事は異常である。

拘束時間延長で、子育て中の女性職員の配転は深刻な問題だ。国税労組系が「お母さん安心してください」と機関紙宣伝したが、個別の配転は組合として一切関知しないという。安心できないことをいかに勝ち取ったように言っただけ、無責任さが目に余る。

全国税組合員のポスト昇任 06・7・10

期・採用年	発令前	発令事項
普25期	上席	法特官
普26期	上席	産特官
普27期	上席	産特官
普28期	上席	法特官
普28期	上席	徴特官
普29期	上席	法特官
普29期	上席	個特官
普29期	上席	産特官
普29期	上席	法特官
普29期	上席	産特官
普30期	上席	法統括
普31期	上席	個特官
普32期	上席	個統括
普32期	上席	法特官
普32期	上席	徴特官
普32期	上席	法特官
国専2期	上席	法特官
国専6期	上席	個統括
国専7期	上席	個特官
国専9期	上席	法特官
45年採用	上席	源特官

特官18 統括3 合計21

詰将棋

出題 九段 西村一義
中級クラス
ヒント 桂が主役の攻めです。



持駒 金銀桂

(10分で初段)

そろばん弾

満員御礼の垂れ幕が下がり、人気が続いてきた感のある大相撲であるが、名古屋場所7日目に暴

女性登用進まず
子育て「天国と地獄」
3年間でわずかに2ポイント程度しか改善できなかった昇任割合を、数値を示して改善する計画を明らかにしなかった当局の姿勢がそのまま反映したかたちだ。

行騒ぎが起こった。前頭東3枚目の露嶋(ロシア出身)が大関千代大海との取組後にカメラマン2人を平手で殴ったというものだ。土俵上で張り手を食らった力士が脳震とうを起こし、そのまま倒れる光景もまたある。力士にはそれほど力があ

「良かったね」と周りの職員から声が掛かった。一方で配慮されず退職せざる得なかったと思われる事例も見られ、こと子育て配転に関して各局当局への評価が分かれる。大武元長官が言っていたように、「人材を大切にしたいのなら、子育てに配慮しすぎということはない。補正発令も検討すべきだ。」



七夕行動で賃下げ策動阻止。人事院に抗議

二重に

地域較差を拡大

STOP

人事院の企業規模引き下げ

7月7日、1カ月後の人勧をにらみ、人事院と政府に向けた行動を展開した。7月25日にも全国から上京団を組んで中央行動を展開し、人事院の悪行を止めるために奮闘している。

人事院の参事官は、給

とすると、焦点は50人規模に引き下げた民間給与調査を人勧に反映するかどうかである。

この調査自体矛盾だらけだ。昨年、各地域の賃金動向により地域手当を導入し、本俸を最大7%、平均5%も引下げたばかりである。企業規模に関係なく、その地域の賃金

勤務時間 再任用者の扱い 当局、バタバタ劇

6月29日付けで庁から事務運営指針を発遣。各局は7月3日、各税務署に再任用者の割り振りパターンを伝達した。

庁も庁だが、元凶は、民主党、小泉首相、人事院にある。

「おれ達は職員じゃないのか！」 再任用者の怒りが収まらない。

勤務時間割り振りで、庁当局の再任用者に対する扱いが如実に表れた。

7月1日からの勤務時間割り振り再任用者には何の話もなし。ある再任用者が「当局に聞いたです」と、あなたは第三種に決まっています。

再任用者を選ぶのは「余地はない」とけんもほろろ。相談を受けた全国税本が庁に確認したところ、基本的には一般職員とかわらない、との回答。

週明けから勤務時間が

事務計画と運営

最低限これだけは

18事務年度の年間計画と運営に関して、全国税は7月3日、下記の要求書を提出した。

今事務年度の焦点は、平成21年夏の機構改革に向けた内部事務一元化の試行拡大。死亡者まで出した確中期の運営転換も大きな課題である。

「センター方式拡大」「部門活性化」「調査日数確保」「若手育成」など、様々な新規施策も盛り。危機管理強化でも時間をとられ、ある統括官は「これで件数や率をいわれたら体がもたない」と早くも悲鳴をあげている。職場が一丸となって要求実現を迫ろう。

事務計画に関する要求書

平成18年度事務計画への要求

(1) 基本要素

事務計画を策定にあたっては、増案件数主義を排し、ゆとりある事務運営の確立、署の実情に即した施策の実施など現場の判断を尊重すること。

休日「開庁」、出勤施策をとりやめること。コールセンターなどセンター方式の拡大は、当組合との十分な協議を尽くすこと。

事務計画は、労働組合、職員と協議し、理解と納得を得て策定すること。

7月の勤務時間変更後、増加した勤務時間帯での労働強化を排すること。

「最適化計画」の実行、内部事務一元化試行については、長年の経験の尊重、処遇改善になる、定員減らしの策としない、そして労働軽減につながるものとする。

(2) 内部事務の一元化試行に関する要求

新システム構築前に、旧システムによる「人体実験」的な労働を無理強いしないこと。

試行は新システム開発後に行うこととし、システム構築にあたっては、エンドユーザーである現場職員の意見を反映させる措置を必ずとること。

仕事の流れにシステムを適合させるようにすること。そして、業者への丸投げは行わず、当局としての管理責任を果たすこと。十分な研修を保障すること。

勤務時間内処理原則を職員に明示すること。

当該事務への職員配置にあたっては、その将来にわたる処遇を説明し、職員希望を尊重して行うこと。

アウトソーシングについては、そのあり方につき当組合と協議し、合意を得ること。

(3) 調査・徴収および内部事務に関する要求

増差・件数・不正など計数管理の強化につながる計画策定や、事務運営手法を採用しないこと。

広域運営・併任発令について、そのあり方につき当組合と協議し、合意を得ること。その発令にあたっては、職員の負担を考慮したものとし、また、事務年度途中での変更を行わないこと。

慢性的な超過勤務状況を改善するため、現行内部事務部門(担当)を質量ともに充実する措置を優先すること。

(4) 確定申告期事務に関する要求

心身両面にわたる健康最優先の事務計画とすること。「立ちっぱなし労働」という労働形態は確定申告期事務から完全に排除すること。

局署一体で真に挙署体制といえる人員配置を行い、超過勤務を大幅に削減することを目標に掲げること。

税務職員としての誇りを貶め、健康を破壊する「巡回指導」方式強要は行わず、納税者サービス拡充につながる「対面相談」方式に改めること。

個人課税事務における長年の経験・知恵を無視し、機械的な効率主義に陥った前年の事務計画を見直し、適正・公平な課税の実現を担保できる期限直後事務とすること。

「日曜開庁」はやめる方向で見直しを行うこと。休日開庁・出勤の拡大は計画しないこと。

時間延長の話題しきり

【近畿・東大阪支部】

職場内は7月1日からの勤務時間延長の話がしきり。「子どもを送り迎えが不安」「転勤が市内か否かで生活の危機が」「昼休み受付はどうなるの?」……

青年の生活が良くなるように要求してきまして、税務署の職場に全国税が必要だと改めて感じています。

新しい仲間加入を心から歓迎します。

あなたはどうか指導するのですか?

【近畿・南大阪支部】

それにしては昼食も含めて30分の休憩など人間の生活とは思えません。

……時間外レクの開始時間は? 管理職は超勤を把握できるの? 本場にこんなんで大丈夫?

「命と命のぶつかり合い」。イラクでの惨

青年からのメッセージ

【四国地連・K生】

私が働く職場には労働組合が二つあります。職場に入ってから、人数の多い方の組合から「早く加入して」と誘われましたが、両方の説明を聞いてからと思いましたが、人数の多い方は、全国税の悪口が載ったパンフレットをくれました。一方、全国税の人は親切に組合や職場のことについて説明してくれました。信用できるな、と思いついて加入しました。昨年8月まで一年間、組合本部の執行委員として、当局との交渉の中でも低賃金の

状態ではなく今年の確定申告会の状況だ。

杖をつき、腰が曲がり、耳や目が悪くなり、苦勞の人生を歩んで来たに違いない老いた人々の怒り、叫び、哀願にさえ思える悲痛な訴えが方々から聞こえて来た。

「去年までは親切にやってくれたのに……」

一方、職員も心身ともに暗く、辛い気分が陥っている。局幹部が署を巡回していたが、



【東京・江東東分會】

「勤務時間変更で保育園の送迎が気がかり。私は何とか間に合っただけですが、昨年も今年も私の周りで育児と仕事の両立の難しさが原因で職場を去る女性職員が出たのは残念でなりません。突然のことです。ショックです。職場でのフォロワーの大切さを痛感します。」

詰将棋

解答 ▲2金△同玉

▲3四桂△1二玉▲2

銀△同飛▲同角成△同玉

▲2二飛△3一玉▲4一

歩成△同玉▲4二飛成

▲13手詰

解説 ▲2二金と捨て

て▲3四桂が大きなクサ

ビ。▲2一銀以下飛車を

入手して、▲2二飛からは手順の追詰となる。